



2013年度第2四半期決算の概要(補足資料)

三井化学株式会社

2013年11月

1) 2013年第2四半期決算の概要	・・・ 1
2) 2013年度第2四半期 事業の概況	・・・ 2
3) 機能化学品セグメントの増減概要（売上高・営業利益）	・・・ 3
4) 機能樹脂セグメントの増減概要（売上高・営業利益）	・・・ 4
5) ウレタンセグメントの増減概要（売上高・営業利益）	・・・ 5
6) 基礎化学品セグメントの増減概要（売上高・営業利益）	・・・ 6
7) 石化セグメントの増減概要（売上高・営業利益）	・・・ 7
8) フィルム・シートセグメントの増減概要（売上高・営業利益）	・・・ 8

1) 2013年第2四半期決算の概要

(単位:億円)

摘 要	12年度	13年度	増減	増減率
	4-9月決算	4-9月決算		
売上高	6,805	7,316	511	8%
営業利益	15	110	95	643%
営業外損益	40	3	37	-
経常利益	25	107	132	-
特別損益	90	24	66	-
税金等調整前四半期純利益	115	83	198	-
四半期純利益	153	10	163	-
為替レート(円/\$)	79	99	20	
国産ナフサ(円/KL)	55,200	64,700	9,500	

2) 2013年度第2四半期 事業の概況

円安効果を背景に国内自動車産業は輸出車を中心に生産が回復し、また住宅・公共事業関連分野での需要拡大により、石化、機能樹脂は総じて堅調に推移しました。ナフサクラッカーについても、当初予想の稼働率80%を上回って稼働しました。北米の自動車も好調を継続しており、海外のPPコンパウンド事業も堅調です。

機能化学品では、メガネレンズモノマー、不織布等のヘルスケア製品群、農薬についても底堅く推移しており、順調に収益を拡大しています。

電材関連もスマートフォンの好調を背景に、アペル等を中心とした機能性ポリマー製品などが好調に推移しています。

フィルムシート関連も、包装フィルムについては価格改定の効果、産業用フィルムもスマートフォン向け高付加価値分野の需要拡大により、堅調に推移しました。

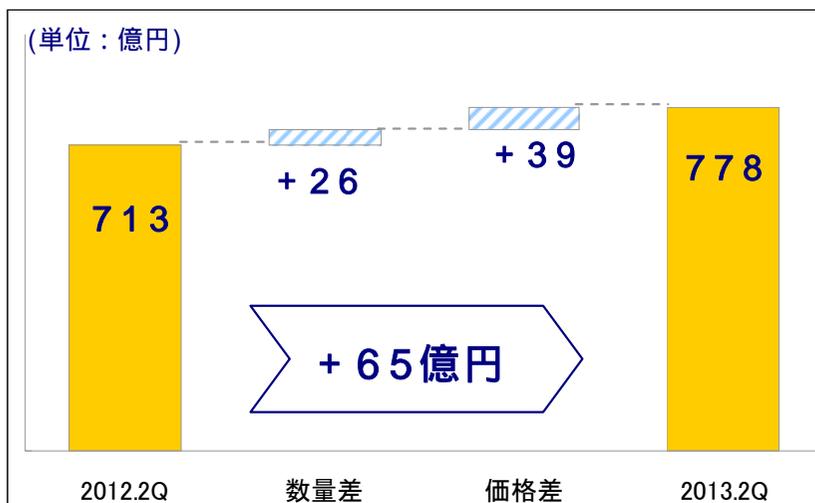
一方、基礎化学品のフェノール、PTA等については、中国市況が依然として低迷しており、加えて中国内需の成長鈍化、欧州向け輸出の不振、供給過剰の継続を背景に厳しい状況が続いています。

ポリウレタン材料のTDIについても、主要用途である家具向けの低調を受け、中国での市況は低迷が続いており、原燃料価格の上昇も加わって、厳しい状況となりました。今後、需要期を迎えますが、顧客の在庫レベルは低く、需要の回復傾向が出てくれば顧客の購買意欲も回復すると見えています。また、中東をはじめ新興国の需要は堅調に推移すると見えています。

3) 機能化学品セグメントの増減概要(売上高・営業利益)



売上高増減(2013年第2四半期対2012年第2四半期)



778億円 (前年同期比 +65億円)

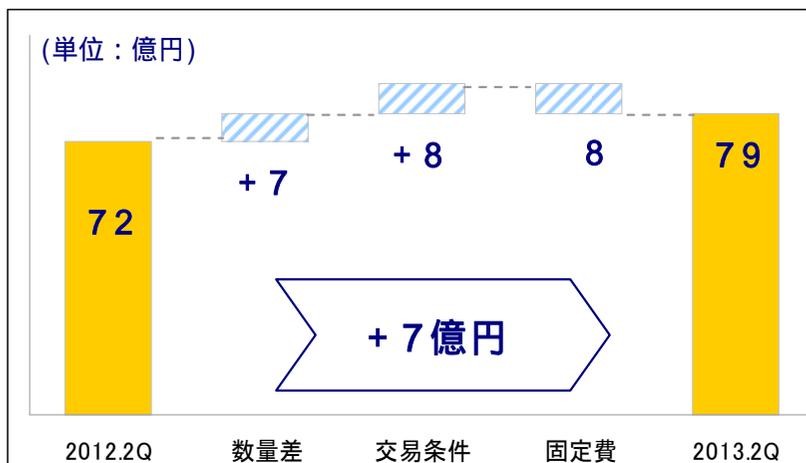
数量差 +26億円

メガネレンズモノマー、農薬の海外需要の拡大、国内外の紙おむつ需要が旺盛な不織布の拡販。

価格差 +39億円

農薬輸出、タイの不織布子会社MHM等の為替差。

営業利益増減(2013年第2四半期対2012年第2四半期)



79億円 (前年同期比 +7億円)

数量差 +7億円

メガネレンズモノマー、不織布等の増販。

交易条件 +8億円

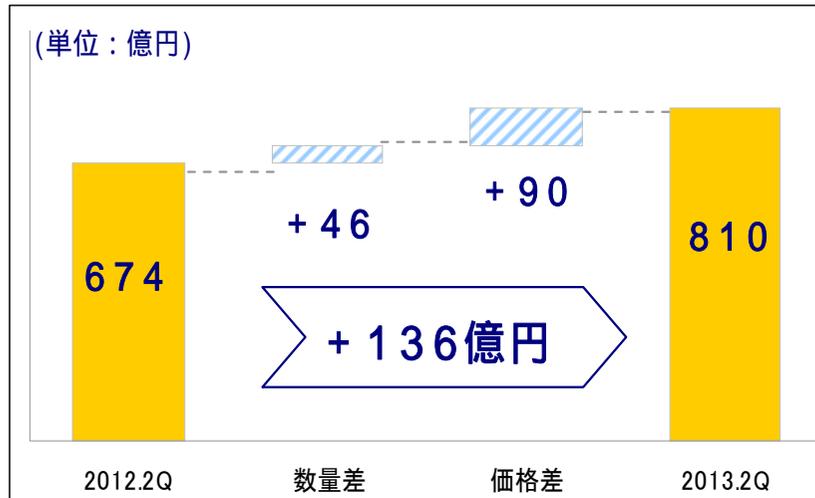
主に農薬等での為替差。

固定費他 Δ 8億円

岩国休止固定費の戻り及び在庫影響。

4) 機能樹脂セグメントの増減概要(売上高・営業利益)

売上高増減(2013年第2四半期対2012年第2四半期)



810億円 (前年同期比 +136億円)

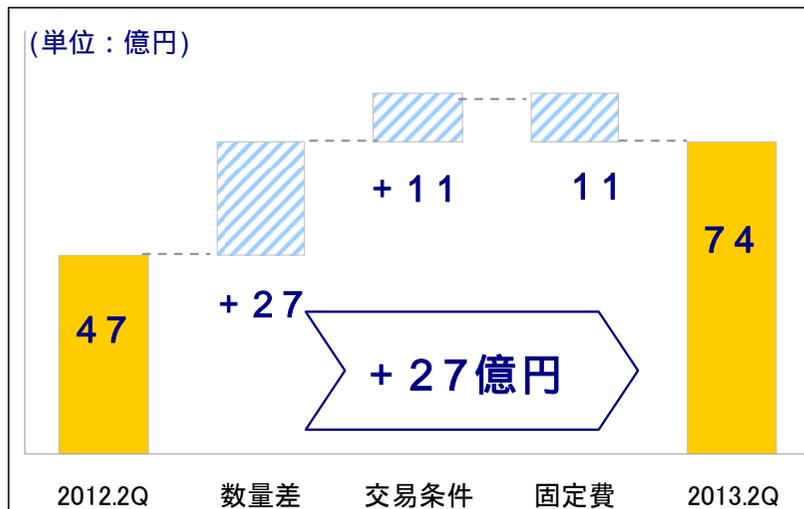
数量差 +46億円

北米を中心とする自動車用途の需要拡大、円安の効果により、エラストマー、機能性コンパウンド等で拡販。スマートフォン向けに需要が拡大しているアペルの拡販等。

価格差 +90億円

主に為替差による増収。

営業利益増減(2013年第2四半期対2012年第2四半期)



74億円 (前年同期比 +27億円)

数量差 +27億円

自動車用途の需要拡大に伴い、エラストマー、機能性コンパウンドが増販。スマートフォン向けに出荷が好調な機能性ポリマー製品も増販。

交易条件 +11億円

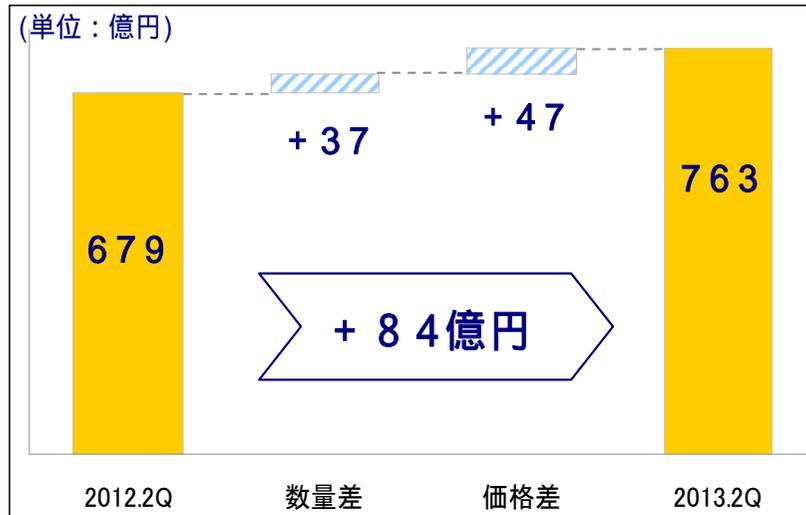
為替差および機能性ポリマー等の交易条件改善。

固定費他 △11億円

主に岩国休止固定費の戻り

5) ウレタンセグメントの増減概要(売上高・営業利益)

売上高増減(2013年第2四半期対2012年第2四半期)



763億円 (前年同期比 +84億円)

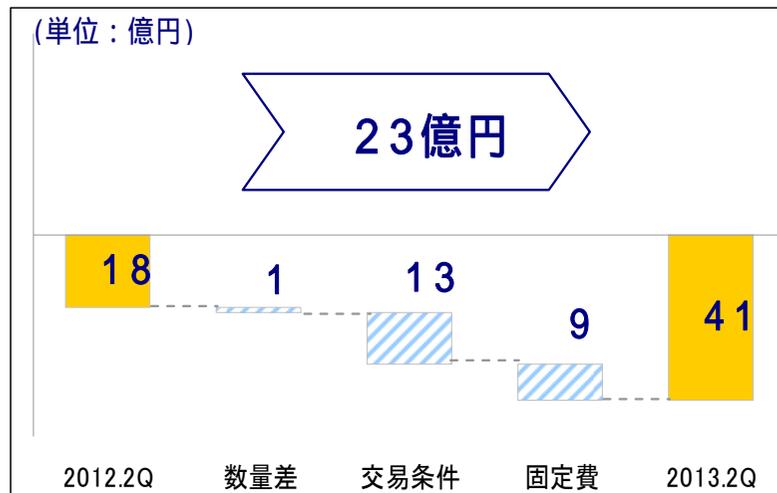
数量差 +37億円

TDI等ポリウレタン材料の海外での販売数量増加。

価格差 +47億円

主に為替差。

営業利益増減(2013年第2四半期対2012年第2四半期)



△41億円 (前年同期比 △23億円)

数量差 △1億円

成形材料製品の販売低調など。

交易条件 △13億円

海外のTDI市況下落および原燃料価格の上昇。

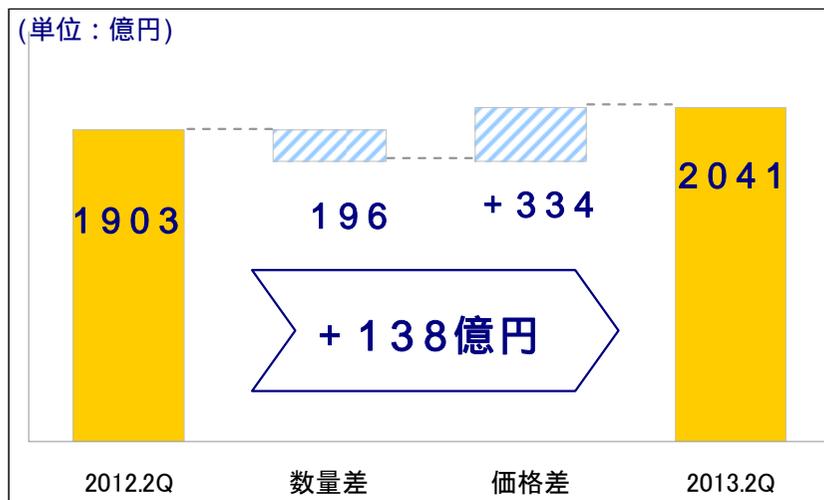
固定費他 △9億円

岩国休止固定費の戻りに加え、在庫取崩しが前年より多く、在庫固定費負担の増加。

6) 基礎化学品セグメントの増減概要(売上高・営業利益)



売上高増減(2013年第2四半期対2012年第2四半期)



2041億円 (前年同期比 +138億円)

数量差 Δ 196億円

事故影響の戻りがあるものの、フェノール類、PTAの中国を中心とする需要低迷。

価格差 +334億円

輸出、海外品の為替差およびPH類、PTAを中心とした原料価格上昇に伴う国内での販売価格上昇による増収。

営業利益増減(2013年第2四半期対2012年第2四半期)



Δ 80億円 (前年同期比 Δ 10億円)

数量差 Δ 15億円

PH類、PTAのアジア需要後退に伴う減販。

交易条件 +12億円

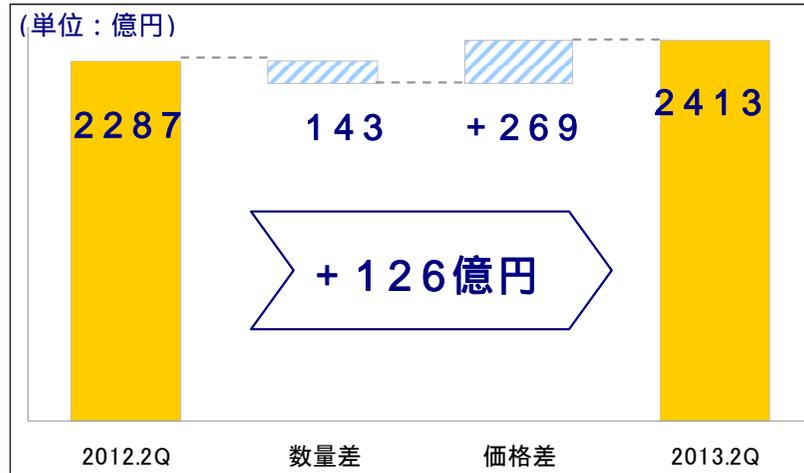
主にPH類のアジア市況の低迷および原料ベンゼンの高止まりによる減益があるも、事故影響の戻り、在庫受払差のプラス要因による増益。

固定費他 Δ 7億円

コスト削減努力があるも、岩国休止固定費の戻り等。

7) 石化セグメントの増減概要(売上高・営業利益)

売上高増減(2013年第2四半期対2012年第2四半期)



2413億円 (前年同期比 +126億円)

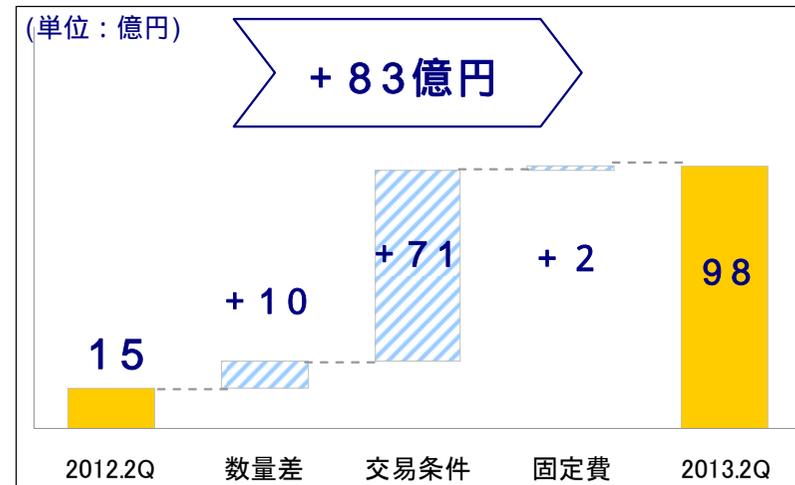
数量差 Δ 143億円

海外の自動車向けPPコンパウンドは好調に推移するも、国内ポリオレフィンの需要減。

価格差 +269億円

為替差、原料価格上昇に伴うポリオレフィン価格の上昇。

営業利益増減(2013年第2四半期対2012年第2四半期)



98億円 (前年同期比 +83億円)

数量差 +10億円

国内ポリオレフィンの販売は減少したが、海外PPコンパウンドの増販により増益。

交易条件 +71億円

ナフサ価格が比較的安定して推移したこと、および国内ポリオレフィンのフォーミュラー販売の期ずれ解消の進捗による期ずれ金額の大幅な縮小、並びにコストダウン等による増益。

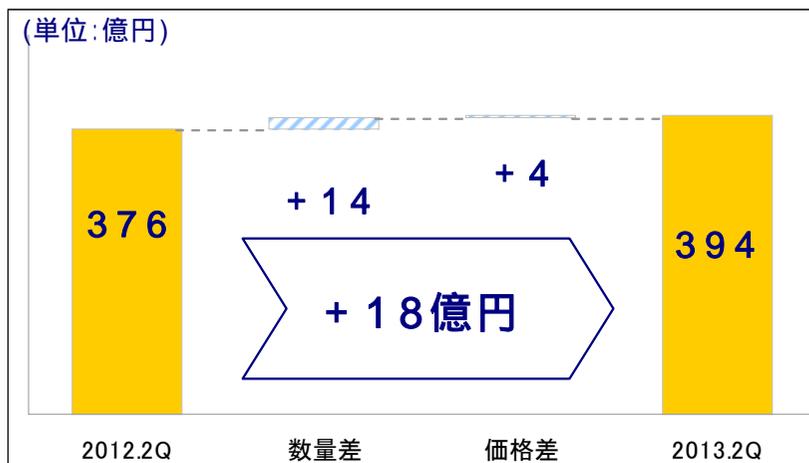
固定費他 +2億円

ポリオレフィンプラント停止に伴う固定費の減少等。

8) フィルム・シートセグメントの増減概要(売上高・営業利益)



売上高増減(2013年第2四半期対2012年第2四半期)



394億円 (前年同期比 +18億円)

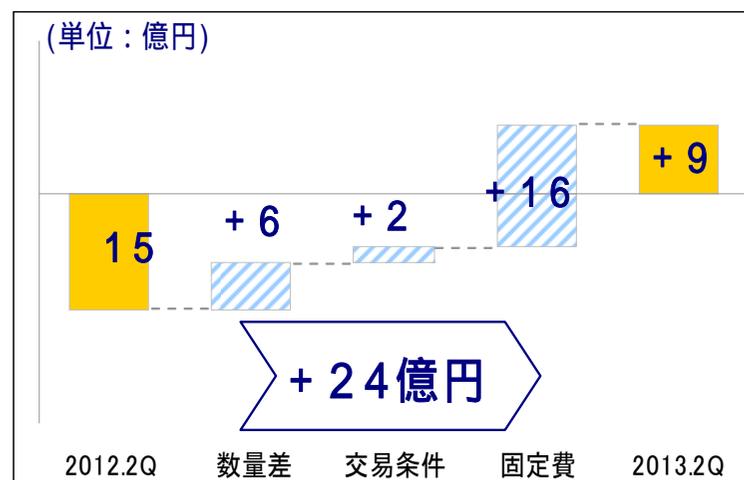
数量差 +14億円

産業用フィルム、機能シートの増販。

価格差 +4億円

包装フィルムでの原料価格上昇に伴う販売価格改定の影響、産業用フィルムでの半導体製造工程用フィルムの為替差による増収。

営業利益増減(2013年第2四半期対2012年第2四半期)



+9億円 (前年同期比 +24億円)

数量差 +6億円

産業用フィルム、機能シートの増販。

交易条件 +2億円

主に為替差による増益。

固定費他 +16億円

前期の設備減損を始めとした固定費減少および経費減等。